

目黒星美学園小学校

学校紹介記事は p. 62 を参照

建学の精神のもと 「喜びのある学校」を目指して 「ともに学び合う」ことを柱とした教科教育を展開

目黒星美学園小学校の設立母体であるサレジオン・シスターズは、1872年サレジオ会創立者聖ヨハネ・ボスコにより創設されました。本部は、イタリア・ローマに置かれ、姉妹校は今日までに94カ国、約2,400校にわたっています。聖ヨハネ・ボスコが提唱した予防教育法に基づき、「理性」・「宗教」・「慈愛」を根幹として教育活動を展開しています。

◆できた喜び、分かった喜び

「理性」に働きかける教科教育を目指して、「ともに学び合う子」をテーマに、一人ひとりの子どもたちの学びを丁寧に見とり、力を伸ばすとともに、主体的な探究を大切にしたい授業を目指しています。

「できた」、「分かった」をはじめとする、自己の変容を認識できた時の満足感や達成感は、子どもたちに大きな喜びを与えます。様々な事象について、苦勞して探究しより良い方法を見つけたり、いろいろな方法を試みて新たな知識を身につけたり、という深い学びの経験は、子どもたちを一回り大きく成長させ、自分の対する自信を持たせます。



◆学び合いを通して「慈愛」を育む

他者の立場になって考えたり、友達や教師から大切にされていることを感じられたりする関わりを、学級づくり、授業づくりの基本にしています。

学び合いの中では、ひとつひとつの友達の考えに寄り添い、どうしてこう考えたのだろう。という発想の源を考え合うことを大切にしています。たとえ誤った答えや考えであったとしても、それに至った考える過程にみんなが近づいていくことで、汎用性のある思考力を育みたいと思っているからです。また、友達が真剣に自分の意見について考えてくれた経験や、それによってよりよい考えに至ることができた体験は、子どもたちにとって安心して学び合える雰囲気や感覚を育てていくことでしょう。



学び合う環境の充実

●ICTの充実

全教室に大型のタッチディスプレイを整備し、黒板の良さと電子黒板の良さを生かした授業を展開しています。また、1年生からタブレットを活用した情報教育を展開し、思考力・判断力・表現力の育成を図っています。

●専門教育の充実

小学校教育における深い学びの実現に向けて、技能教科を中心に専門教員を多数配し、充実した授業を展開しています。

国際理解を目指した英語教育を1954年の創立当初より続けています。人材のグローバル化が進む中、子どもたちの未来において必要な基礎リテラシーであると位置づけ、ネイティブの教員との異文化コミュニケーションを日常化する環境を作っています。